



■最終処分場検討委員会「豊科候補地」を選定

穂高広域施設組合最終処分場検討委員会（委員長・福島和夫 信州大学理学部教授）は11月25日、一般廃棄物最終処分場の建設にかかわる報告書を、組合の管理者である宮澤市長に手渡ししました。

この検討委員会は平成20年に設置され、安曇野市など6市町村から排出される家庭ごみの焼却

却灰などを処分する最終処分場候補地の検討を行ってきました。今回の報告では、「豊科田沢の採土場」を最終候補地として絞り込み、選定に至った経緯や選定方法などをまとめました。

また、説明会などで意見が多かった「本庁舎との併設」については、適当でないとする考えも示しています。

宮澤市長は、「地元で計画内容を説明する機会を与えていただくよう誠意を尽くしたい」と述べました。

報告書の全文は、穂高広域施設組合ホームページ（<http://www.anc-tv.ne.jp/hotaka-c/>）または同組合窓口、各総合支所内地域支援課窓口でご覧いただけます。



答申書の概要を伝える福島委員長（写真右）

■本庁舎建設検討の経過を5地域で説明



三郷会場での説明会（11月25日）

市は11月19日から29日にかけて、市内5地域で本庁舎建設検討にかかわる市民説明会を開催しました。

この説明会は、9月に全戸配布した建設基本構想のダイジェスト版を詳しく説明し、皆さんから意見をいただくために開いたもので、5日間で延べ622

人が参加しました。

来場者からは、市の財政が今後どうなるかといった質問、庁舎の規模がどの程度になるかといった質問、既存施設が有効利用できないかという意見などが寄せられました。

宮澤市長はそれぞれの会場で、「来年の5月までに建設場

所を選定し、具体的な基本計画を作成したい」と今後の方針を示しました。

来年1月20日発行の「広報あづみの」では、今回説明会の内容も含め、これまでお問合わせの多かった質問や意見などをまとめ、市の回答とともに掲載する予定です。

■「水道料金の統一」が望ましい「審議会」が答申

市の水道事業運営審議会（矢ヶ崎記久会長）は11月20日、現在、旧5町村ごとに異なっている水道料金を統一するよう宮澤市長に答申しました。

答申では、一般家庭の大部分を占める13ミリの基本料金は、10立方メートルまでを、ひと月1500円に統一することが望ましいと提言。実現すれば、豊科と堀金は

現状どおり、三郷は240円値上がり、穂高は250円、明科は335円値下がります。このほか、加入分担金の統一、穂高別荘の水道料金を一般の料金体系に切り替えることも提言しています。

市では、来年3月議会に改正案を提出する予定で、来年10、11月徴収分の基本料金から適用することを目指しています。



答申書を手渡す矢ヶ崎会長（写真中央）

■市内プロジェクトチーム 部署の枠越え「水物語」提案

市のさまざまな部署の担当者で構成する市内プロジェクトチームは11月24日、安曇野の豊かな水資源を守り、生かすための施策をまとめ、宮澤市長に提案しました。

この取り組みは、市が長期的な重点プロジェクトとして総合計画に位置づける「水」、「食」、「交流」プロジェクトのひとつで、事業の連携や相乗効果を図るために進めています。



中堅職員でアイデアを練った

提案は「安曇野水物語」と銘打ち、企業や観光客などから募った基金で、地下水を深くくむ取り組みや、水の魅力を体系づける取り組みなどをあげています。

今後は各課でさらに検討を重ね、事業の実現に向けて取り組んでいく予定です。来年度は、さまざまな水の魅力や情報をまとめたホームページと「水マップ」の作成に着手する方針です。

監査委員の選任

横山実さんと千國倅嗣さんが監査委員を退任し、新たに山中崇さんが11月25日付けで、千國寛一さんが11月27日付けで選任されました。



監査委員 山中 崇



代表監査委員 千國 寛一

ご利用はお早めに！ 安曇野市プレミアム商品券

「安曇野市プレミアム商品券」の有効期限は、平成22年1月11日（月）です。お忘れのないようお使いください。

三郷総合支所内産業観光部商工労政課
(TEL77・3111 FAX77・6060)